

和巧絶佳展

わこう
ぜっか

令和時代の
超工芸



【会期】2021 3.20(土)祝 ▶ 5.9(日)

*休館日なし

*10:00~18:00(最終入場は17:30)

【会場】

 みやざきアートセンター
入場口5階



日本の伝統文化に
根ざした工芸美

桑田卓郎 [くわた・たくろう]

ポップな色彩と梅華皮（かいらぎ）など伝統的な技法をデフォルメすることで、器の概念を覆す不思議な表情の本作品は、圧巻の存在感がある。

舘鼻則孝 [たてはな・のりたか]

花魁（おいらん）の高下駄を再解釈した作品。牛革の表面全体に七宝文（しっぽうもん）のエンボス加工が施されている。高下駄は、米国歌手レディー・ガガが着用したことで有名になった代表作（Heel-less Shoes）シリーズの原点でもある。

深堀隆介 [ふかほり・りゅうすけ]

深堀の作品はアクリル絵具と透明樹脂を用いており、まるで生きているかのような立体的な金魚が人気の理由のひとつであるが、実はこれらは作家のイメージのなかの実在しない金魚なのである。



手わざの限界の
その先にある工芸美

見附正康 [みつけ・まさやす]

九谷焼を構成するひとつ、加賀赤絵の大皿。見附は赤絵細描（あかえさいびょう）で伝統的に用いられてきた模様ではなく抽象的な文様を自ら作り出し、見事な技術で人知を超えた世界を見せてくれる。

山本 茜 [やまもと・あかね]

ガラスで裁金（きりかね）を挟み融着させる裁金ガラス。平面に施されていた裁金を、山本が三次元の表現に転化させたことで、繊細な模様が立体的になり、さらに半永久的にその美しさを保てるようになった。

池田晃将 [いけだ・てるまさ]

自身になじみ深いサブカルチャーの要素を螺鈿（らでん）など漆の伝統技法を用い表現している池田。レーザーを用いて貝を切るなど現代テクノロジーと作家の技術の融合が宇宙的な美しさを生み出している。

高橋賢悟 [たかはし・けんご]

2011年の東日本大震災をきっかけに、生と死をテーマとした《flower funeral》シリーズを展開。0.1ミリといった前例のない極薄鋳造による小さな忘れな草の花で生物の頭蓋骨を覆った作品は、素材の可能性の追求に秀で卓越した技で表現した世界感が、国外でも高い評価を得ている。



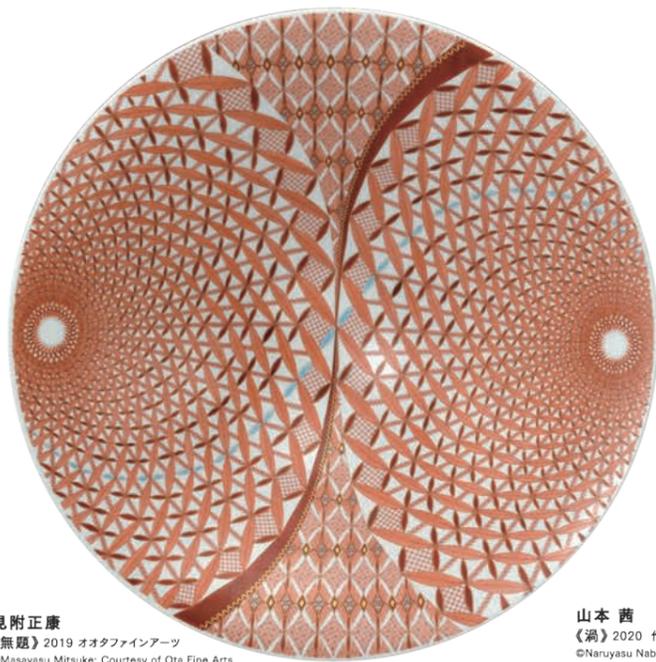
桑田卓郎
《茶境》2015 個人展
Photo by Kenji Takahashi ©2021 Takuro Kuwata



深堀隆介
《金魚酒 命名 伽琳》2016



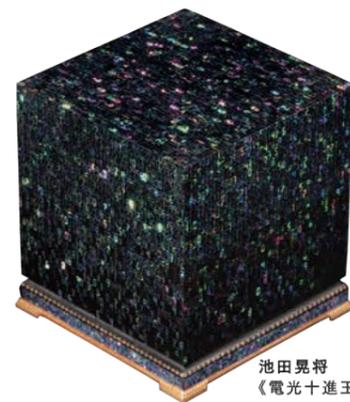
舘鼻則孝
《Floating World》2014 作家展
Photo by Kenji Takahashi ©2021 NORITAKA TATEHANA K.K.



見附正康
《無題》2019 オオタフインアート
©Masayasu Mitsuke, Courtesy of Ota Fine Arts



山本 茜
《渦》2020 作家展
©Naruyasu Nabeshima



池田晃将
《電光十進玉箱》2019 個人展



高橋賢悟
《second forbiddance》2018 個人展
撮影：橋本第一

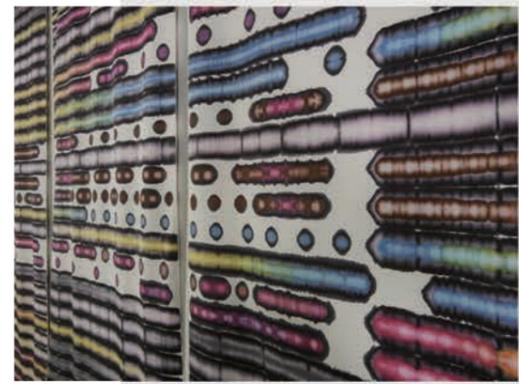
グローバル時代をむかえ、私たちを取り巻く物の均質化が進むなか、日本各地で育まれてきた工芸や手仕事独自の表現を生み出す資源として見直されています。

工芸というジャンルにとらわれることなく、素材を用い、技法を駆使して工芸美を探求する本展の出品作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性の広がりを予感させます。

本展覧会では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されている1970年以降に生まれた作家12人を紹介します。

展覧会タイトル「和巧絶佳」は現在の日本における工芸的な作品の三つの傾向——日本の伝統文化の価値を問い直す「和」の美、手わざの極致に挑む「巧」の美、工芸素材の美の可能性を探る「絶佳」——を組み合わせた言葉です。

この展覧会は現在の日本の工芸の新しい兆候を示すだけでなく、これまで受け継がれてきた日本の手仕事の可能性を考える機会となることでしょう。



安達大悟
《つながる、とぎれる、くりかえす》2020 作家展



新里明士
《光器》2019 Yutaka Kikutake Gallery



橋本千毅
《花蝶螺鈿蒔絵箱》2018 個人展



佐合道子
《とこしえ》2019 作家展
写真提供：池田ひらく



坂井直樹
《monochrome》2020 作家展 ©Eiichi Ina



素材が生み出す
工芸美の可能性

安達大悟 [あだち・だいご]

絞り染め（いたじ）の一種で、折り畳んだ布を板に挟んで染める板締（いたじ）め絞りで作られた作品。安達は「にじみ」を模様に取り入れ、発色豊かな現代のテキスタイルを作り出している。

新里明士 [にいさと・あきお]

蛸手（ほたるで）の作品で知られる新里の新作。過去作に比べ口径を大きくすることで、上方からの光をより広く受け入れ、繊細な模様が際立つ作品になっている。重力とせめぎ合う技術も見事である。

橋本千毅 [はしもと・ちたか]

螺鈿（らでん）と平文（ひょうもん）による花を散らし、螺鈿と蒔絵（まきえ）を施した蝶を把手として取りつけた円形の箱。上質な貝と確かな技術に裏打ちされた華やかな色彩が見事な逸品である。

佐合道子 [さごう・みちこ]

有機・無機の相違を成長・成熟の有無と捉えている佐合は、本作でも細かなヒダを張り巡らし生きているような表情を与えている。鋳込み成形を用いながら、繊細な技で自然を再解釈した良品。

坂井直樹 [さかい・なおき]

直線的な把手が印象的な金工作品は、1枚の鉄板から鍛金（たんきん）の技法で生み出される。ひと槌（つち）、ひと槌とふるわれる金槌から、侘び寂びがカタチとなって表れる。

山本 茜
見附 正康
深堀 隆介
橋本 千毅
新里 明士
館鼻 則孝
高橋 賢悟
佐合 道子
坂井 直樹
桑田 卓郎
池田 晃将
安達 大悟
出展アーティスト

関連イベント ○申し込み・問い合わせ TEL.0985-22-3115
○ワークショップやイベント参加には、展覧会の入場券(半券可)提示が必要です。

『ヒールレスシューズ試着体験会』

米国歌手のレディー・ガガも愛用するヒールレスシューズを履いて、会場内のミニ・ランウェイを歩いてみよう!

- 日時=3月20日④⑤、21日⑥ 5月1日④、2日⑥
- ①午前の部…10:30~12:30 ②午後の部…14:00~16:00
- ※30分単位で5名ずつ予約受付
- 会場=5階ロビー(予定)
- 定員=各回20名(一人あたり5分程度)
- 対象=準備する靴が履ける方。

- 靴サイズは2種類
- 注意=靴のサイズはおおよそ23cm~26cmの方が対象です。作品にダメージが出た場合や試着が危険と判断した場合には、その場で中止とさせていただきます。予めご了承ください。



館鼻則孝《Heel-less Shoes》

申し込み開始 2月7日⑥ 9:00~

ワークショップ① 『じゃぶじゃぶ紙漉き体験!』

和紙を漉いてハガキを作ろう!好きなパーツを入れてオリジナルにデコレーションしてね。

- 日時=4月18日⑥
- ①10:30~12:30 ②14:00~16:00
- 会場=3階/創作アトリエ ●定員=各回5名
- 対象=小学生以上
- ※小学校1、2年生は保護者同伴
- 参加費=500円
- ※参加の際には、汚れてもよい服装またはエプロン、手拭き用タオルをご持参ください。



※写真はイメージ

申し込み開始 3月18日⑥ 9:00~

ワークショップ② 『ビギナーもできる♡ 水引アクセサリ作り』

古くから縁起物として魔除けや縁結びのモチーフとされてきた水引。そんな水引を使ってイヤリングやピアスを作ってみませんか。

- 日時=4月25日⑥
- ①10:30~12:30 ②14:00~16:00
- 会場=3階/創作アトリエ ●定員=各回8名
- 対象=高校生以上 ●参加費=1,000円



※写真はイメージ

申し込み開始 3月25日⑥ 9:00~

お気軽にご参加ください ○申し込み不要 ○展覧会への入場が必要です

『担当スタッフによるギャラリートーク』

- 展覧会の見どころを約30分程度でご説明します。
- 日時=4月10日、24日の④曜日、14:00~
- 集合=5階ロビー ※中止する場合がございます

『和テイストを楽しむ 自由参加型ワークショップ』

- 展覧会をもっと遊ぼう!身近な素材でできる和の創作をお楽しみください。
- 折り紙を使ったポチ袋やクラフトテープの箸置きづくり、キラキラでデコる☆みんなのカメラ【構】ツリーなど
- おとなも子どもも気軽に参加できるワークショップです。和と工芸の図書コーナーも!
- 会場=4階/多目的室

【観覧料】 ●一般 高校生以上 1,000円 ●小中学生 600円 ●未就学児 無料
(前売800円) (前売400円)

◎団体(10名以上)は、当日料金から100円引き

*小学生以下は保護者同伴で入場可 *各種割引は 前売券・他の割引との併用不可 *障害者手帳、療育手帳をご持参の本人に限り無料

【プレイガイド】前売券は3/19⑥まで販売

みやざきアートセンター、宮崎キネマ館、宮崎山形屋、宮交シティ、生活協同組合コープみやざき県内各店、宮崎空港ビル、蔦屋書店宮崎高千穂通り、宮日カルチャーMRTミック教室、宮崎カメラ県内各店舗、宮崎市民活動センター(宮崎市民プラザ3階)、宮崎市民文化ホール、メディキット県民文化センター内チケットセンター、西村楽器micc本店、はあーとパン、日向市文化交流センター、高鍋町美術館、セブンイレブン、ローソン(Lコード:82736)、チケットぴあ(Pコード:685-479)、ファミリーマート(CNプレイガイド)

【主催】和巧絶佳展宮崎実行委員会(みやざきアートセンター、MRT宮崎放送)、朝日新聞社 【協賛】宮崎市

【後援】宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、都城市教育委員会、宮崎県市町村教育委員会連合会、宮崎県PTA連合会、宮崎市PTA協議会、宮崎市芸術文化連盟、宮崎県美術協会、一般社団法人宮崎県商工会議所連合会、宮崎商工会議所、Doまんなかモール委員会、公益財団法人宮崎県観光協会、公益社団法人宮崎市観光協会、宮崎県校長会、宮崎日日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、夕刊デイリー新聞社、NHK宮崎放送局、UMKテレビ宮崎、MCN宮崎ケーブルテレビ、宮崎サンシャインエフエム、有限会社葎脈社、宮崎交通株式会社

【表紙作品】上より

館鼻則孝《Heel-less Shoes》2014 Photo by Kenji Takahashi ©2021 NORITAKA TATEHANA K.K. 橋本千毅《蝶細"鸚鵡"》2018 深堀隆介《金魚酒 命名 長夢》2019 山本茜《戴金硝子香合「無我」》2016 ©T.MINAMOTO 高橋賢悟《flower funeral -cattle-》2017 撮影:橋本茜

新型コロナウイルス感染拡大防止のための注意事項 ※最新の情報は、当館ホームページ(miyazaki-ac.com)をご確認ください。

- 来場当日、37.5℃以上の発熱がある方、咳、くしゃみ、喉の痛みなど風邪の症状がある方、体調のすぐれない方のご来場はご遠慮ください。
- ご来場の際、入り口での手指の消毒、マスク着用、入場時の検温へのご協力をお願いいたします。また、会場内での大声の会話はお控えください。
- ソーシャルディスタンスの観点から、できる限り他のお客様との距離を保ってご覧ください。
- 密集、密接を避けるため、入場制限を行う場合がございます。



【交通アクセス】

- 飛行機…宮崎空港から車で20分
- JR線…宮崎駅下車、西口より徒歩15分
- バス…橋通3丁目下車すぐ/宮崎ナナイロ前下車徒歩1分
- 車…宮崎自動車道 宮崎ICより国道220号線を市内方面北へ15分

【駐車場】

- ※下記提携駐車場は、当館3階受付で駐車券提示にて30%割引券を発行
- 宮崎山形屋東側 Y・Yパーク(徒歩5分)
- メリージュ通り駐車場(徒歩1分)

みやざきアートセンター

〒880-0001 宮崎市橋通西3-3-27
TEL.0985-22-3115
miyazaki-ac.com

和巧絶佳展「宮崎会場」特設ホームページ→
https://miyazaki-ac.com/?p=6688

